



中学生団員 17 名、各種交流団員 1 名、一般団員 1 名を中心とした三好市姉妹都市交流親善団 23 名が、10 月 3 日から 10 日までの 8 日間、姉妹都市であるアメリカ合衆国オレゴン州ザ・ダルズ市を訪問しました。

ザ・ダルズ市はロッキー山脈に源を発するコロンビア川下流域の南側にあり、川向かいにはワシントン州となっています。ダルズという名はフランス語の“le dalle”「谷」に由来し、広大な溪谷の続く場所です。少なくとも一千年前からアメリカ原住民の商取引の中心地として栄えていたと言われており、北アメリカで最も古くから居住が始まったところです。

団員たちが、姉妹都市でどのような事を見て・聞いて・感じて来たのかを、今月より 2 回にわたってご紹介いたします。

●ザ・ダルズ市に行つて驚いたのは、信号がほとんどないことです。日本だと交通事故が起こると思いますが、ザ・ダルズ市では、事故は全く起こっていませんでした。さすがアメリカだと思いました。一人一人が意識していれば、事故は起こらないのだと分かりました。次に驚いたのは氣候です。ザ・ダルズ市は山に木がなくて、とても乾燥していました。それは雨が滅多に降らないからだそうで、僕はとても肌が乾燥しました。今回の交流が、ケガや病気がなく無事に終わって良かったです。なにより、みんなが無事に帰ることが大切だと思います。

(中学生団員 藤田岳)

●僕にとつてこの研修はとても意味のあるものになったと思います。アメリカは、とてもスケールの大きい国でした。ザ・ダルズ市はそれほど都会ではありませんが、実際に生活してみると驚きの連続で、我を忘れてしまうほど毎日わくわくしていました。僕がこれから生活していく

うえでもこの研修は重大な役を担っていくと思いますし、そうしなければいけないと思います。今回アメリカに行くことによって、どれだけ自分の英語力が低いか再確認することが出来ました。これからはもっともつと英語力を磨いていきたいと思いました。

(中学生団員 佐川卓功)

●僕がダルズに行こうと思った理由は、この先僕が大人になった時に絶対英語は必要と言語だし、今の年齢から海外でホームステイをすることで、より視野を広くできるんじゃないかなあと思つたからです。ホームステイ先の人はすごく優しい人で、しかも、僕

が分かるようにできるだけ簡単な単語を使つてくれたりしたので、少しずつ不安がなくなつていきました。アメリカはすごく土地が広くて、日本では見られない景色をたくさん見ることができました。僕は今回、ダルズに行つてすごくたくさんのことを学んだし、とても楽しかったです。

(中学生団員 竹林甚)

●様々な文化や人に触れ合つて二つの大切なことを学べました。一つ目は何事もやってみなきゃわからないということです。言語や文化の違いアメリカで、自分の思っていることを何もせずにそのまま伝えるのは不可能です。下手でもいいからやってみるといいことが大切だと気づけました。二つ目はコミュニケーションの大切さです。アメリカ人は日本に比べてテレビをあまり見ていませんでした。なぜかという話をずつとしているからです。コミュニケーションをとることはアメリカ人にとつて生活していくうえでとても重要な事なんだなと思いました。

(中学生団員 近泉優)

●アメリカにはいろんな国の人が出て、互いの文化を認め合うという気持ちが強く、尊重し合つているように感じました。それにすごくフレンドリーで、積極的に話しかけてくれて嬉しかったです。街で歩いていると目が合うだけにつこりしてくれたり、手を振つてくれたりして、温かい



気持ちになりました。ホームステイをさせてもらっている間に気付いたことは、家族との時間をとても大切にしているということでした。みんなで集まつて話をしたり、出かけた回数日本より多いと思いました。私も、もう少し家族との時間を大切にしようと思いました。

(中学生団員 漆川かおる)

●まさか自分がホームシックになるなんて思ってもいませんでした。家に電話をかけた時、泣いている私を父や母は必死に慰めてくれ、私はその言葉を噛み締めながら毎日少しずつ成長したと思います。アメリカに行つてたくさん友達が出来ました。名刺を持って行つていたので、今後はメールで連絡ができます。日本という世界から一度出る事で、自分の今後に活かせる自分の英語力の向上にもなつたし、公共の場でのマナー、入国審査など、滅多に出来ないことを中学生で体験できうれしいです。

(中学生団員 田村美稀)

●私の中で強く心に残っていることは、公園でサンドウィッチを食べた時です。女の子が遊んでいたから友達と一緒に話しかけてみました。二人のうち一人はとてもフレンドリーでひとなつこい子供だったので、ずっと一緒にあそんでいました。もう一人の子は、あまり話さなくてでこなかつたけど、最後にはうちとけて話してくれたのですが、今思えば言葉が伝わってなかつたのかも知れません。後悔しているのは、自分の英語力が無い為に分からないことも少しあったことです。これを機に少しでも英語を学ぼうと思いました。

(中学生団員 石山登)

●私はステイ先の方と一緒に買い物に行つたり、ボートに乗つたり、山にハイキングしたり色々な体験をさせてもらいました。言葉はわからなけれど、心地よい日々を過ごすことができました。優しい Eileen さんの笑顔は最高です。あつという間の六日間、も

う少し一緒に生活させてもらいたかった。別れる時に Eileen さんが涙を流してハグしてくれ、私も泣いてしまいました。自分の子どものように私を扱ってくれたことに感謝します。言葉が異なっても心の繋がりがあれば生活できるし、人を思う気持ちは世界共通であることも学びました。

(中学生団員 小松奈央)

●私がホームステイした家はみんな明るく、昔から知り合いのような感覚で私たちを受け入れてくれました。いろいろなことでお互いの言葉が理解できなくて、ジェスチャーでわかりあえるまで話を頑張りました。なかなか伝わらないけど、時間をかけてやっと伝わった時は、お互いが笑つて、またひとつ仲良くなれたような気がして嬉しかったです。

(中学生団員 元木彩乃)